

授業科目	母性看護学演習	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次後期	1単位	講義・演習・GW	30時間
到達目標	1. 母性看護に必要な技術を修得する 2. 母性の特性を捉えた看護過程の展開ができる					講師
						専任教員
授業計画						
1回	看護過程の展開：情報収集、情報の分析、問題点の抽出、優先順位の決定、目標の設定、計画立案、実施、評価・考察					
2～4回	妊娠・分娩期に必要な技術とは・演習（妊婦体験・子宮底長・腹囲・レオポルド触診法・分娩監視装置の判読、基本的ニードの充足、産痛緩和法、胎盤計測）					
5回	看護過程（母性記録）発表準備グループワーク					
6回	看護過程（母性記録）発表					
7回	看護過程（ゴードン11の機能的健康パターン、関連図）発表準備グループワーク					
8回	産褥期に必要な技術とは （母乳育児支援、子宮底、悪露の観察、産褥体操、ドライテクニック、沐浴）					
9回	看護過程（ゴードン11の機能的健康パターン）発表					
10回	看護過程（看護計画、評価）発表準備グループワーク					
11回	看護過程（看護計画）発表					
12～13回	産褥期に必要な技術演習 （母乳育児支援、子宮底、悪露の観察、産褥体操、ドライテクニック、沐浴）					
14～15回	TBL 応用問題グループワーク					
評価方法	選択問題又は論述問題による筆記試験（40%）、看護過程（40%）、レポート①（10%）、レポート②（10%）を総合して評価する					
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学①母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学②母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅰ 概論 医歯薬出版 母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版					
備考	予習においては教科書の該当ページを熟読する。関連動画は演習前に視聴しておく。グループワークは事前課題に取り組み積極的に参加する。復習においては、教科書、講義資料を用いて学習した内容を整理し、理解を深める。看護技術については繰り返し練習を行い習得する。					